

【樹木の部屋】

センニンソウ (キンポウゲ科センニンソウ属 Clematis terniflora)

和名：センニンソウ（仙人草） **別名**：ウマクワズ（馬食わず）

英名：Sweet Autumn Clematis

キンポウゲ目 蔓性低木 **原産地**：日本、中国、朝鮮半島

花言葉：安全、無事、あふれるばかりの善意

花色：白



← ↓ 写真-1、2 センニンソウ
撮影日：2019年08月02日
撮影場所：能登半島
ヤセの断崖にて
撮影者：M さん



← 写真-3 センニンソウの葉
撮影日：2019年08月02日
撮影場所：能登半島ヤセの断崖にて
撮影者：M さん

能登半島西海岸、能登金剛にあるヤセの断崖の上の遊歩道散策中に見かけました。円柱形で緑色の茎が長く伸び多岐に分かれて、小葉は 3-7 枚の羽状複葉。葉柄は曲がりくねって他の物に絡む蔓性です。枝の先端と葉腋から 3 出集散状の花序を出して多数の白い花を付けます。4 枚の白い花卉のように見える部分は萼片です。雄蕊、雌蕊は多数あり、開花時期は 8-9 月頃です。

和名のセンニンソウ（仙人掌）は、花の後に果実より伸びた銀白色の長毛が密生した様子を、仙人の髭に例えたことと由来しているそうです。センニンソウの別名には、ウマクワズ（馬食わず）の他、ウマノハオトシ（馬の歯落とし）、ウマノハコボレ（馬歯欠）、ウシクワズ（牛食わず）、ハコボレ（歯欠）、ハグサ（歯草）などがあり、これは有毒植物であるために呼ばれているそうです。

根茎を掘り出して水洗いした後に乾燥したものが生薬「ワイレイセン（和威霊仙）」ですが、その利用例はわかっていないそうです。民間では、夏から秋にかけて採取したセンニンソウの生の葉を扁桃炎（へんとうえん）、神経痛、リウマチの痛みの患部に数分貼り付けるなどの、少し手荒い療法があったようです。いずれにせよ、センニンソウは毒性が強いので、民間では絶対に飲用しないように注意が必要です。それゆえワイレイセンは、漢方の生薬として日本では利用されていないそうです。

センニンソウと花がよく似た種にボタンヅル (*Clematis apiifolia*) があります。センニンソウは羽状複葉で卵形の葉であるのに対し、ボタンヅルは三出複葉でボタンに似た鋸歯の多い葉をつけるので見分けがつかます。

<ちょっと一言>



← ヤセの断崖

撮影日：2019 年 08 月 02 日

撮影者：M さん

石川県羽咋郡志賀町笹波にある断崖絶壁。能登金剛と呼ばれる複雑に入り組んだ海岸線や奇岩・奇勝の数々が見渡せます。松本清張の小説を原作とした映画『ゼロの焦点』の舞台としても知られています。近くには「義経の船隠し」もあります。